

# 事業報告書

公益財団法人 茨城国際親善厚生財団

当財団は、平成 26 年 4 月 1 日から平成 27 年 3 月 31 日までの期間、下記の事業を実施しました。

## 1. 公益認定申請時事業番号「公1」（災害時における茨城県内の緊急医療福祉支援体制を強化する事業）

### 1-1. 「公1」の(1)「緊急医療福祉支援活動に関する研修会・講演会の開催」

茨城県西ブロック商工会議所女性会との共催にて講演会を開催し、当財団が行なってきた国際医療福祉支援活動（インドシナ難民医療支援、エチオピアでの飢餓難民支援、アフガニスタンでの医療支援、大メコン流域地区でのマラリア、結核、エイズ対策プロジェクト等）の経験を講演し、ご参加いただいた皆様に、国際医療福祉支援活動の実際についてご理解いただきました。

### 1-2. 「公1」の(2)「緊急医療福祉支援活動関係者による会議の開催事業」

災害時の緊急事態における医療福祉支援体制を構築するため、専門家を含む会議を適宜開催しました。

### 1-3. 「公1」の(3)「緊急医療福祉支援活動を担う人材の育成事業」

#### (1)メーファールワン財団の来日(4月)

当財団は、平成 16 年 5 月に協定を結んだタイ国王室関連メーファールワン財団との間で、医療福祉支援活動、感染症対策医療従事者研修活動、麻薬撲滅活動への協力などを行なっております。本年度は、日本における、今後の一層の高齢化に対処するための、医療福祉支援活動を担う人材の育成事業について、メーファールワン財団から、代表のディスナダ・ディスクル殿下をはじめ 11 名を結城市に招き、協議しました。

また、滞日中、ディスナダ・ディスクル殿下は、橋本昌茨城県知事を訪問し、茨城県とタイとの今後の交流全般について、意見交換を行ないました。

#### (2)タイ国メイサイ病院職員の来日(7月、11月、3月)

平成 21 年 9 月、当財団は、タイ国チェンライ県メイサイ市所在の国立メイサイ病院と、医療支援協力に関する協定を結びました。この協定に基づく事業の一つとして、当財団は、メイサイ病院の職員を結城市に招く事業を継続して行なっています。本年度は、7 月に看護師と薬剤師各 1 名、11 月に看護師 2 名、3 月に看護師 2 名を招待し、城西病院、及び当財団グループの社会福祉法人筑西会が運営する介護老人保健施設「すばる」、特別養護老人ホーム「ヒューマンハウス」を視察し、日本の先進技術を見学するとともに、職員同士の交流を持ちました。茨城県内の医療福祉従事者が、医療体制が十分でない地域で医療福祉を行なう専門家と交流する事は、県内の災害時における緊急支援活動に資するものと考えます。

### (3) タイの消防士来日(8月)

Σ型屈折はしご付消防車1台をメイサイ市に寄贈(下記2.(1))するに当たり、メイサイ市の消防士2名を結城市に招き、メイサイ市における救急・消防活動について説明を受ける機会を持ちました。メイサイ市は、タイ最北部の山岳地帯にあり、河川の氾濫による水害や、山林火災による災害の多い地区でもあり、同地にて救急・消防活動を行なう従事者から実状を学ぶ事は、茨城県における災害時の緊急支援活動に資するものと考えます。

### (4) 城西病院職員のメイサイ市への派遣(1月)

前年度に寄贈した「超音波カラー画像診断装置」の技術指導を行なうとともに、メイサイ市における医療・福祉・救急の連携と実状を視察するため、城西病院の職員1名をメイサイ市に派遣しました。日本では、今後、デング熱などの熱帯病が広がる恐れが考えられます。メイサイ地域は、デング熱を含む熱帯病が多い場所であり、これらの疾病に日常的に対処している病院や自治体の医療体制、救急体制を視察し、その知識を、茨城県内の医療福祉及び救急活動の従事者に伝える事は、県内における類似の疾病発生時の緊急支援活動に資するものと考えます。

## 2. 公益認定申請時事業番号「公2」

(発展途上国において保健・医療・福祉支援活動を行う(県内の)法人・個人等に対する助成事業)

### (1) タイへの消防はしご車の寄贈(10月)

結城市と姉妹都市であるメイサイ市に対し、Σ型屈折はしご付消防車1台を寄贈しました。メイサイ市では唯一のはしご車として、防災に活用される見通しです。

### (2) エチオピアへの消防車・救急車の寄贈(11月)

NPO法人「エチオピアの未来の子供」に対し、中古消防車と救急車各1台を寄贈しました。これらの車両は、消防車・救急車が不足しているエチオピア連邦民主共和国に輸送されました。

## 3. 公益認定申請時事業番号「公3」

(茨城県内在住の児童・青少年と発展途上国の児童・青少年の相互理解を目指した短期留学事業)

### (1) メイサイ高校生の来日(4月)

結城市の姉妹都市であるタイ国メイサイ市との間で、継続して青少年の交流を行なっています。本年度も、メイサイ高校から学生2名が来日し、茨城県立結城第一高校に1ヶ月間通学しました。

### (2) メイサイ高校校長の来日(11月)

メイサイ高校の校長と教員を招き、青少年交流の今後の展開について協議しました。

### (3) 結城第一高校卒業生のタイへの留学(2月)

メイサイ市に1年間留学する、結城第一高校の卒業生1名に対し、学費を含む支援を行ないました。

(4)タイ国教育省からの派遣団の受け入れ(2月)

青少年交流の一層の発展をはかるため、タイ国教育省高等教育局人材育成部長ワラポーン・プルクポンヤクル氏を団長とする計8名のタイ国教育関係者が来日、茨城県教育庁企画室と高等教育課のご指導のもと、茨城県内の中学、高校等を視察しました。

(5)中国からの留学生受け入れ(2月)

陝西省西安の大学生2名が結城に1ヶ月間滞在し、茨城県立結城第二高校に通学するなど、茨城県の青少年と交流をはかりました。

#### 4. その他の事業

(1)メイサイ市長らの来日(11月)

結城市の市制60周年を記念して、姉妹都市のメイサイ市からサライヨン・スリサムート市長、市会議員、市職員ら26名が来日。結城市の記念式典に参加するとともに、今後の相互交流について、当財団と協議しました。

(2)農業関係(4月)

茨城県の優れた農業技術によってタイの農業を支援する事と、タイから農業実習生を茨城県に受け入れる事案を、前年度より継続しました。この事案に関連し、上記1-2.(1)の事業にて来日した、メーファールワン財団代表ディスナダ・ディスクル殿下をはじめとする11名は、滞日中に、農研機構(国立研究開発法人農業食品産業技術総合研究機構)、茨城県農業総合センター、JAなどを訪問し、茨城県の農業事情を視察しました。

(3)陶芸分野での交流(11月)

タイ王室関連メーファールワン財団は、1988年から30年計画で、タイ北部(ドイトン地区、いわゆる「ゴールドトライアングル」の一部)における麻薬撲滅活動を行なっています。かつて、貧困のため麻薬(阿片)の栽培を行っていた住民に、合法的な代替産業(コーヒーやマカダミアナッツの栽培、陶器、紙、民芸品の製造等)を指導する事によって、麻薬の栽培をやめさせ、尊厳ある安定した生活を得させる事業で、国連薬物犯罪事務所(UNODC)から高い評価を受けている事業です。この中で、陶器の製造は重要な品目となっていますが、茨城県笠間の優れた陶芸技術を学ぶ事によって陶器製品の質を向上し、販売の拡大をはかって一層の麻薬撲滅事業の効果を上げる事を狙い、メーファールワン財団から笠間市に対し、陶芸分野での交流を行ないたい旨の申し入れがありました。笠間市は、この申し入れを受け、山口市長を団長とする視察団を、ドイトン地区に派遣し、陶器を製造している職人の技術、使用している陶土、製品の品質、販売の形態等を視察しました。